

令和4年度みやぎハイスクールネットワーク構築事業の成果と課題について（報告）

一 配信校及び受信校 における遠隔授業の実施や運営体制に関する取組 一

学校名：田尻さくら高等学校

担当：教頭 畠山 卓也

主幹教諭 鈴木 歩（理科）

教諭 二階堂 健也（美術）

1 遠隔授業に取り組む校内の実施体制について

- ・ 本校には理科室が二室あり、一室に機材を設置した。相手校の状況が見やすいように校内のモニターを43型にした。マイクについてはヘッドフォンマイクを使用できるようにした。
- ・ 機材等のトラブルに備えて、GoogleWorkspaceを活用できるように準備をしていた。
- ・ 授業担当者のサポートを情報図書部の教員が担当し、不測の事態に備えていた。
- ・ 考査問題や答案を簡易書留等でやりとりする予定だったが、各校で担当が開ける共有フォルダを準備した。そのおかげで、セキュリティ上の問題もクリアーされ、手間も減り業務改善になった。
- ・ 配信校と受信校の時程が違うため、授業の準備、後片付けの時間を考慮し、時間割で1時間の実施につき、2時間分のコマを確保した。

2 学校で実施した研修会等について

- ・ 受信校（中新田高校）の担当者にも協力してもらい、実際に遠隔授業を行う環境を再現することで、機材の有効活用方法を確認・検討する教員研修会を実施した。
- ・ ICT支援員によるGoogleWorkspace活用の教員研修会を実施した。



3 令和4年度の成果と課題について

(1)「理科・科学と人間生活」

イ 成果

- ・ 県で準備した遠隔授業用の機材とGoogle Meetの両方を使用できる環境を整えることで、効果的に演示実験を見せることができる可能性を見出すことができた。

(様式2)

- Google Classroom を利用して授業関係の連絡や教材（プリント等）の提示を行うことで、生徒が必要なデータを探しやすいように工夫した。
- Google Classroom で課題を提出することで、評価材料となる課題がデジタルデータで保存されるため、生徒が提出した後、評価コメントを返却した後など、どのタイミングでも閲覧することができた。
- 生徒の感想
たまに映像が途切れることがあるので改善されれば見やすいと思います。
バターを作る実験が印象に残っている。
普段と違った感じでの授業だったので新鮮味があり楽しかった。
中新田高校に来た時(テスト返却や銀鏡反応など)は有名人に会った時のような特別感があってよかった。
普段の生活でも活かせるようにしたいと思います。楽しい授業をありがとうございました！”
後の社会で必要になりそうな新たな体験ができた。
ミーティングで見た実験が意外と見やすかった。

ロ 課題

- Google Meet 等の基本的な操作（多数の生徒画面から特定の画面を選択する等）でうまくいかないことがあり、授業中では対応できなかった。「必要な操作だけ」に特化したマニュアルが欲しいところである。
- 受信校で機材が設置できる教室に制限があるため、実験の内容に制限が出てしまう。実験の指導では安全確保等の観点から教室全体の状況を把握する必要があるため、Google Meet の使用だけでは難しいと感じる。
- 機材の調整に時間がとられ、授業中に、こまめな振り返りのための時間を確保することが十分にできなかった。この解消のために、今後 Google Forms の活用などを検討したい。



(2)「美術・美術Ⅱ」

イ 成果

- 電子黒板で高解像度の資料の提示をすることで、鑑賞の学習活動は対面授業と同じように行うことができた。
- iPad のアプリを活用したアニメーション制作などデジタルメディアを利用した題

(様式2)

材を設定することで、配信校と受信校側の成果物のやりとりはデータでスムーズに行えた。評価材料としても有効だった。アニメーション制作の題材は、生徒の興味・関心も高く、授業の振り返りでは充実感の高い感想を得ることができた。

- ・ Googleworkspace のスライドで生徒の学習活動を記録することで、評価や生徒の学習の振り返り等に活用することができた。

□ 課題

- ・ 美術室などの特別教室の場合、保管している用具や材料の管理を直接行うことができないため、学校にある備品を有効に活用することができず題材の幅が狭まった。
- ・ 専門性が高い表現活動や応用的な内容は美術室の環境が配信校と受信校で異なるため、生徒の表現したいことに合わせて材料や用具を即座に提示することができなかった。
- ・ 授業内容により、配信機材を設置している教室と美術室を使い分けていたため、作品や用具の移動は煩雑になった。



4 令和5年度に向けた課題について

- ・ 配信する教室が音などの問題から理科室になっている。理科の実験等で使用したいときに弊害が生じているのが現状である。他の教室も検討したが、配信校と受信校の授業時間のずれがあるため、他教室の確保が困難である。
- ・ この事業のノウハウをいかに校内に還元していくかが課題である。本校に、障害のある生徒が在籍しており、人間的な課題がクリアできれば、将来的に別室に配信し、担当教員を配置することで学びの保障できるようになればと考える。
- ・ 授業時間、行事日程のずれがあるため、授業時数の確保が課題。
- ・ 映像の解像度が低いいため、受信校側の生徒の様子がわかりにくい。
- ・ 各配信校・受信校の授業担当者が実際に授業した上で出た課題や要望が、十分に学校間で共有され、各校における取組の改善に生かせるような状況を整えていただきたい。
- ・ 担当者が授業を行う上で必要な情報が、より早い段階で確実に伝わるような校内体制を構築したい。

5 本事業に関連する事柄を公開しているURL

- ・ 田尻さくら高校 HP <https://tajiri-hs.myswan.ed.jp/>